

ATACの内容

本会は長年の経験により独自の技術とノウハウを有する技術者・管理者を結集し、お互いの知恵を出しあい、学習しあい、ネットワークを活用するとともに、中堅・中小企業が抱える国際化、技術開発、人材育成等の諸問題の解決を支援することにより中堅・中小企業の発展に資することを目的とする。
～ATAC規約第2条より～

ATACは上記の目的に則り、これまで14年にわたり中堅・中小企業の発展のために数々の活動を推進してきました。その主なものを挙げますと

1. コンサルティング

ATAC活動の大部分を占める業務で中堅・中小企業の抱えるさまざまなテーマについて450件以上のコンサルティング業務に携わってきました。

2. セミナー開催・講師派遣

ATACは従業員教育、経営管理、ISO関連、品質管理などのセミナーを企画・実施し好評を博しています。また、講演会・研修会などへの講師派遣も行っています。

3. 書籍刊行

中堅・中小企業の発展に役立つため、これまでに刊行した書籍は下記の通りです。

▶ ATACの経営便利帳

▶ 現場の課題解決はこうする

(中堅・中小企業の業務改善事例)

▶ 中堅・中小企業へのATAC提言集

- ①新商品開発のヒント
- ②ISO9000認証取得の手引き
- ③ISO14001認証取得の手引き
- ④中小企業のためのIT
- ⑤材料選択の手引き
- ⑥設計を考える

4. NASCA(産学連携のお手伝い)

企業の技術ニーズをお預かりして、最適な技術シーズを持つ大学や研究機関などを探し、ご紹介する業務です。

5. 公的支援情報送信サービス

ご希望の企業に、国や府県等による研究開発補助金等の公的支援募集情報をタイムリーに分かりやすくe-mailやFAXで無料配信する業務です。

新たに公的支援情報送信サービスをご希望の企業の方は下記の申込書にご記入の上、FAX (06-6443-5319)でお申し込みください。

第7回社長懇話会ご案内送付申込書・公的支援情報送信サービス(両方若しくは、どちらかに✓してください)

<input type="checkbox"/> 第7回社長懇話会ご案内送付申込書		<input type="checkbox"/> 公的支援情報送信サービス新規申込書	
企業名		担当者	
所在地			
TEL		FAX	
E-mail			
社長懇話会情報・公的支援情報送信先(どちらかに✓してください)			
<input type="checkbox"/> FAX		/	<input type="checkbox"/> E-mail

OSAKA・散歩道 大阪に橋はいくつ?

大阪に橋はいくつあるのでしょうか。ある本によると八百八橋に近い800の橋があると書いてありますし、別の本では400程度しかないと書いてあります。最近の新聞には大阪市が管理する橋は700程度だとの記事がありました。「一体どれが本当やねん」「大阪の定義が違ふんやろか」こんな疑問を持ちました。そこで頭に浮かんだのがATACの現場、現物主義です。現場へ足を運んで現物で確認しようと言うATAC魂に動かされたわけです。「せや、自分の足で調べてみたらええねん」そんなことで始めたのが大阪橋めぐりです。大阪の定義は大阪市内、橋は川に架かっている橋。この前提で北は神崎川から南は大和川まで大阪市内の川に沿って歩くこと20回。最初のうちは東横堀川、道頓堀川、木津川、大川、堂島川、土佐堀川、淀川など大きな川や有名な橋が架かっている川を歩いたので、同行者もいました。平野川、今川、駒川などの地味な川になると、とうとう一人で歩くことになってしまいました。それでもやっとすべての橋を渡り終えました。さていくつあったでしょう。答えは最後までのお楽しみとさせていただきます。

大阪市内には今でも8箇所まで渡し舟が運行されています。渡しは橋の代わりでしょうか。いいえ、渡しは道路なんです。昔から渡しがあった千本松に千本松大橋と言う橋が昭和48年に架けられました。しかし、今でも渡しは残っています。それは、人が渡るには橋はとても高いところに架けられているため、自転車や人は渡しが無ければ不便でしかたがないのです。今では自動車中心の考え方が時代の流れなのでしょう。

「大阪には沢山の橋があると言いつつ、『はし』はあっても『はし』は無い」とよく言われます。現物を見ると、かなの名札に「はし」と書いてある橋が結構あります。初めは昔の表記に濁点が無いのが普通なので「はし」と書いて「はし」と読んでいるのだと思っていました。ところが肥後橋は今の名札は「ひごはし」(写真1)と書いてありますが、横に残してある昭和初期の名札には「ひごはし」(写真2)と書いてあります。「ご」と濁りがあるのに「は」と濁りはありません。昔から「はし」はあったのではないのでしょうか。これも現物を見るまでは「はし」はあっても「はし」は無いと言う説を信じきっていました。

お待ちせしました。大阪市内にある川に架かる橋は、私設の橋を含めて566でした。大阪市が管理する橋には、高架道路の桁と桁の間も一つの橋として管理しているそうです。そのため数がまちまちだったのです。

現場へ行き、現物を見るのが一番確実です。そんな現場、現物主義を実践する集団「ATAC」を今後ともご贖賜りますようお願い申し上げます。戯言の終了とさせていただきます。(加瀬)



写真1



写真2